

◆授業設計のポイント◆

- ・ 多様な情報を多面的・多角的に精査し構造化する学習過程の設計
- ・ 生徒の思考を広げ深めるための質問を意識した対話
- ・ 見通し・振り返る活動の充実を図るためのルーブリックの活用

国語科学習指導案

学 級 2年2組(男子17名・女子19名・計36名)

場 所 1年6組教室(1年校舎4階)

授業者 教 諭 大 野 華 代

1 単 元 情報を整理して自分の考えを説明しよう

教材「人間は他の星に住むことができるのか」(三省堂2年)

2 本単元における言語活動

情報を整理して自分の考えを説明する (関連：言語活動例 ウ)

3 言語活動設定の理由

(1) 教材観

本教材は、筆者が天文学者の視点から、人間が他の星に移り住むことのできる可能性について、太陽系のいくつかの天体を検証し、その可否を論じた文章である。論の展開としては、地球以外の天体を一つずつ、「地球からの距離」と「生きていける環境」という二つの条件をもとに移住可能性を検証し、可否を論じるというものになっている。さらに、火星への移住の可能性を述べつつも、地球は素晴らしい星だということについても論及している。今回は、「学級で動物を飼うことはできるのか」というテーマについて説明する文を書き、論の展開や、それに対する書き手の目的や意図を考えたり、その効果について話し合ったりする活動を行うため、それらを効果的に学習するために本教材は適している。

(2) 生徒の実態

本学年の生徒は第一学年時に「読むこと」の領域の「ペンギンの防寒着」や「クジラの飲み水」で、序論・本論・結論という説明文の基本構造や段落相互の関係を捉えたり、文章の展開を捉えて内容を読み取ったりする学習をしてきた。また、自分の意見をまとめる際には、三角ロジック(意見—根拠—理由付け)に従って説明することができる。しかし、複数の資料から適切な情報を得て、比較したり関連づけたりしながら自分の考えを明らかにすることには課題を残している。そこで、三つの説明的文章の比べ読みを行いながら、本教材における論の展開の特徴を捉え、根拠をもって自分の考えに結びつけていく学習活動を展開していく。

(3) 言語活動の特性

「情報を整理する」とは、自分の知識や経験、調査内容などの情報の中から、自分の主張や考えの根拠となるものを取捨選択して取り入れることと捉える。私たちは、あるテーマに対し、まず、自分なりの考えを持つ。そして、伝える相手や目的により、どのような情報を用い、どのような展開が最適かを考え、わかりやすく説明しようとする。本教材の筆者は、自分の考えや意見を述べる時、読み手を惹きつけるような論の展開によって、自分の考えに迫っていくという説明を行っている。生徒たちは、説明文を書くことを目標とすることで、目的や条件に基づいて情報を整理し、論の展開を工夫することの重要性を学ぶことができると考える。

(4) 言語活動の工夫

本単元の学習では、単元の導入に、「学級で動物を飼うことはできるのか」というテーマについて自分なりに説明文を書くことで、情報を整理することや、論の展開を工夫することが必要であると気付けるようにする。展開では、「情報の整理」と「論の展開」の観点をもとに本教材を読み取り、その特徴に気付くために、三つの説明的文章の、特に本論に注目して比べ読みを行う。説明文は小学校で学習したものと、中学一年時で学習したものと本教材である。この段階では、根拠を明確にし、テーマに沿う説明の仕方について話し合う活動を重視して、文章に対する自分なりの考えをより明確にする。終末では、本単元で身に付けた力を生かして、類似の問いに対して、どのように情報を整理し、どのような論の展開にすればよいか、根拠を持って説明することで、本単元の目標を達成できるようにする。

4 単元の目標

- (1) 目的に沿って文章を読み、適切な情報を得て、自分の考えを述べようとする。 (関心・意欲・態度)
- (2) 論の展開について、筆者の目的や意図を捉え、根拠をもとに自分の考えをまとめることができる。 (読むこと ウ)
- (3) 複数の情報から目的に応じて適切なものを選択し、自分の考えをもつことができる。 (読むこと オ)
- (4) 相手や目的に応じて、文章の形態や展開に違いがあることを理解することができる。 (伝国 イ(オ))

5 単元における評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
① 目的に応じ、内容や表現の仕方に注意して文章を読み、知識や体験と関連付けて自分の考えをもとうとしている。	② 論の展開について、筆者の目的や意図を捉え、根拠をもとに自分の考えをまとめること。 ③ 複数の情報から目的に応じて適切なものを選択し、自分の考えをもつこと。	④ 相手や目的に応じて、文章の形態や展開に違いがあることを理解して読んでいる。

6 単元で目指す深い理解の姿

「テーマ：学級で動物を飼うことはできるのか」に対する自分なりの考えを論理的に説明する際、結論にたどり着くまでの説明（本論）を、説得力のある（もしくは、読み手を惹き付ける）論の展開にするために、最適な論の展開はどれか、根拠を持って説明することができる。以下は、深い理解に至った生徒が書くゴール文の例である。（_____：条件，_____：整理された情報（論の展開を支える根拠となるもの），_____：自分の思い）

学級で動物を飼うことはできるのだろうか。ここでは、学級を教室内と捉えることとする。

学級で動物を飼っている学校を調べてみると、複数存在していた。飼う条件として「世話のしやすさ」と「費用がかかりすぎないこと」が重要な条件となる。この条件をもとに、動物を飼うことができるのかを考えてみることにする。

世話がしやすい動物といえば、籠や水槽の中で飼える動物である。では、インコはどうだろうか。費用の面で考えたとき、インコのえさは安価であるため、飼うことができそうである。籠の中で飼えるため、一見世話をしやすい動物のように思われる。しかし、インコは言葉を覚えることも出来るので、授業中に不必要な言葉を発してしまう可能性もある。覚えてしまったからは忘れさせることはできないので、一気に世話がしにくくなる。よって、教室で飼うことは難しい。

では、金魚はどうだろうか。金魚は、手に入りやすく、費用もかからないように思われる。しかし、水槽の水は定期的に替える必要があり、酸素を入れるサーバーは、休日もずっと付け続けておく必要がある。よって、費用を考えたときに、教室で飼うにはふさわしくないと見える。メダカも同じだ。

では、亀はどうだろうか。水槽の中で暴れることもなく、冬場は冬眠するため、世話がしやすい。費用の面で考えても、ほとんどえさを食べないため、ほとんどかからない。

これらのことから、いくつかの条件をクリアしていれば、動物を飼うことはでき、もっともふさわしい動物は、亀であるといえる。ただし、亀を飼うとしても、大切な命であるため、みんなで協力して育てなければならない。

7 到達目標問題

「もう一回クラスマッチを増やすことはできるのか」という問いに対し、目的や条件に基づいて情報を整理し、分かりやすく自分の考えを説明しなさい。

《採点基準》

1. 情報を整理する上での目的や条件が示されているか。
2. 目的や条件に基づいて情報を整理することができるか。
3. 自分の考えに結びつく論の展開になっているか。

8 単元の指導計画（全6時間）

過程	活動のねらい	学習活動	時間	指導上の留意点
導入 (気づき)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 言語活動を体験し、課題意識を持つ。 	1 「学級で動物を飼うことができるのか」というテーマについて、自分の考えを説明文にする。	1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 説明文の基本構造を確認することで、自分の考えを文章にできるようにする。 ・ 言語活動を体験し、自分なりの考えや反論を述べ合う中で、目的や条件の違い、情報が不足していることなどといった課題に気付かせるようにする。
		2 課題意識を基に単元の学習課題を確認する。	1	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 課題を解決するための見通しを持つ。 	3 解決すべき課題を話し合いで明確にし、ルーブリックを作成する。	1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「授業で出来るようになりたいことは何か」という観点で、課題を出し合い、それらを全体でグルーピングしていくことで、ルーブリックを作成していけるようにする。
展開 (納得)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 比べ読みを通し、「論の展開」を観点にしながら分析的に読む。 	4 本教材の本論の展開を、分析的に読み、表にまとめる。	1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 始めに、問いを検証していく展開になっている三つの説明文を提示し、比べ読みを行いながら課題を解決していくことをおさえる。 ・ 本教材の本論の展開に注目し、「条件」に対して可否を述べていくことの効果を捉えられるようにする。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 比べ読みを通し、それぞれの論の展開と筆者の目的や意図との関係を捉える。 	5 筆者の目的や意図について、根拠をもとに考える。	1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 比べ読みをすることで、筆者の目的や意図に応じて、論の展開を工夫していることを捉えられるようにする。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ テーマについて、説明する際にふさわしい論の展開について考える。 	6 今回のテーマに最適な論の展開について話し合い、自分の考えをまとめる。	1 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 再度テーマを分析し、「答えが明確でない問い」であるからこそ、「目的や条件をより明確に示した上で、情報を整理していく」方法が適切だと理解しやすくする。
終末 (意志)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学んだことを生かし、単元のまとめをする。 	7 今回のテーマについて、目的や条件に基づき、情報を整理し、論の展開を工夫して自分の考えを説明する。	6	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前時までの学習を踏まえ、実際に、条件に基づき、自分の目的や意図を明確にして説明文を書くことで、今回の学習を深める。

9 本時の実際（5／6）

(1) 目標

「学級で動物を飼うことができるのか」というテーマ（問い）について説明する際に、適当な論の展開を、根拠を持って選択する。

(2) 授業設計の工夫

ア 情報を多面的・多角的に精査し構造化する学習過程の設計 研究の視点1

単元を通した学習の中で、本時は三つの説明文を分析したものとテーマに対する自分の考えと結びつけていく場となる。適切な論の展開を選択し、それに対する根拠を明確にするためには、テーマについても再度分析をし、答えが必ずしも明確にならないという点で共通していること、だからこそ条件を挙げて説明していくことが、説得力のある説明文にするには効果的であることを押さえる必要がある。この過程における判断の論理性が、次時の自分の考えを説明する活動に生きてくると考える。そこで、本時では、個人の分析結果から生み出された考えを班員に説明するとき、あるいは、班での話し合い活動で生み出された考えを全体に発表するときに、そのように考えた根拠と理由付けを明確に示しながら対話や発表を行うことを促したい。多様な視点から話し合い、追及していくことで本単元の目標となる深い理解に迫ることができると考える。

イ 生徒の思考を広げ深めるための質問を意識した対話 研究の視点2

本時では、「学級で動物を飼うことができるのか」というテーマについて説明するために、最もふさわしい論の展開を選択するための対話を行う。互いの判断の論理性を高めるために、質問を意識させたい。「質問の段階」を示し、お互いの考えのより細やかな相違点や共通点に気付いたり、根拠や理由付けを吟味したりすることで、全員の思考が深まるような対話を行わせ、深い理解に迫っていく。

ウ 見通し・振り返る活動の充実を図るためのルーブリックの活用 研究の視点3

本単元の第2時での学習をもとに作成したルーブリックを本時の導入と終末で確認し、学習の目的の確認や見通し、振り返りをする際に活用する。

(3) 展開

過程	主な学習活動とその目的	時間 形態	○指導上の留意点 ◎評価
導 入	1 前時の学習内容を想起する。 2 学習課題を確認し、学習の進め方を確認する。 【学習課題】 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> テーマについて、グループの考えを説明するために最適な論の展開はどれか。 </div> 《テーマ》 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 学級で動物を飼うことができるのか。 </div>	2 一斉 3 一斉	○ 電子黒板とルーブリックシートで学習を振り返らせることで、本時の学習の目的を確認し、見通しを持てるようにする。 ○ 学習課題を提示するとともに、学習の流れを確認する。 【学習の流れ】 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> ① 自分の判断を、根拠を持ってまとめる。 ② グループで意見を交換し、選択した論の展開とその根拠を発表する。 ③ 全体で一つに絞る。 ④ ルーブリックシートを使って、学習を振り返る。 </div>
	3 自分の判断を、根拠を持ってまとめる。 4 今回のテーマについて最も効果的な論の展開はどれかを、話し合い、根拠を明確にしてホワイトボードにまとめる。	10 個 13 班	○ 今回のテーマ「学級で動物を飼うことができるのか」について、自分の考えを説明するために、最も効果的な論の展開はどれか、根拠を持ってまとめられるよう、「情報の整理」「論の展開」という観点を明確にする。 ○ 実際に書いてみたとき、どのような文章になるのか、できるだけ具体的に想像しながら、自分の判断をまとめるよう助言する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> ◎ 論理的思考力（レベル2） 自らの考えとその根拠を説明することができる。 </div> ○ 友達の考えを読み、質問してみたいことをノートにメモを取るよう助言する。 ○ 「質問の段階」を利用し、相手の意見をうのみにするのではなく、互いの気付きや考えの深まりにつながるような話し合いを意識する。

展 開	5 全体で協議し、一つに絞る。	15 一斉	<p>○ 机間指導を行い、共通点や相違点、観点の見直しなどの助言を行う。</p> <p>④ 協働する力（レベル2） お互いの意見を整理しながら、考えの質を高めていくことができる。</p> <p>○ ホワイトボードを教師がファシリテートしながら整理し、本教材の論の展開の特徴を明確にする。</p> <p>○ 「答えが一つに定まらない」という考えを拾い上げ、共有する。場合によっては、導入に行った言語活動を振り返り、意見がまとまらなかった原因について考えることで問いの違いに目を向けやすくする。</p>
	<p>「納得」 S：学級で動物を飼うという問いには答えが一つでないから、C（『人間は他の星に住むことができるのか』）と同じだ。</p>		
	6 ルーブリックシートに、できるようになったことをまとめる。	5 個	◎ Cの説明文は、条件への可否を論じる展開で、その可否の判断を支える根拠（情報）を整理して述べているといった特徴を、自分の判断の根拠として挙げることができる。
終 末	7 次時の予告をする。	2 一斉	○ 次時は、今回学んだ論の展開に基づいて、情報を整理し、説明文を書くことを予告し、次時への学習意欲を持てるようにする。